

平成 27 年度に係る業務の実績に関する評価結果

国立大学法人弘前大学

1 全体評価

弘前大学は、エネルギーに関わる豊富なポテンシャルや原子力施設及び核融合関連施設、地球温暖化・環境に関わる世界自然遺産白神山地、食糧危機・食の安全に関わる食糧基地等を有する青森県の特性を、大学の教育、研究及び社会貢献の中心課題として、世界と地域に対し、人材の育成と情報の発信を行うことを目標としている。第2期中期目標期間においては、国内外の各領域でのリーダーとなり得る高度専門職業人を育成すること等を目標としている。

この目標達成に向け、学長のリーダーシップの下、白神山地における環境変動モニタリングの観測サイトの拡充や生物標本の継続収集等を行うとともに、教育推進機構を再編し体系的な教育を推進するなど、「法人の基本的な目標」に沿って計画的に取り組んでいることが認められる。

「戦略性が高く意欲的な目標・計画」の取組状況について

第2期中期目標期間においては、緊急被ばく医療を担う地域の求める特色ある人材の養成を目指した「戦略性が高く意欲的な目標・計画」を定め、積極的に取り組んでいる。

平成27年度は、国内外の関係機関との連携強化を進め、長崎大学、鹿児島大学及び弘前大学の三大学が中心となり、高度実践看護師教育課程の新たな分野として「放射線看護」分野を特定している。また、「放射線安全総合支援センター」を新たに設置するとともに、専任の事務職員を「高度被ばく医療支援センター」及び「原子力災害医療・総合支援センター」に配置し、被ばく医療に係る取組の一層の強化を図っている。

大学の機能強化に向けた取組の状況について

教員業績評価システムと一体となった基本年俸と業績年俸からなる新たな年俸制を導入し、この新たな年俸制を適用した教員9名を採用しているほか、全学が一体となって機能発揮できる体制の構築を目的として、教育研究組織から分離した教員組織である「教育研究院」を設置している。

2 項目別評価

<評価結果の概況>

	特 筆	順 調	おおむね 順調	やや遅れ	重大な 改善事項
(1) 業務運営の改善及び効率化		○			
(2) 財務内容の改善		○			
(3) 自己点検・評価及び情報提供		○			
(4) その他業務運営		○			

I. 業務運営・財務内容等の状況

(1) 業務運営の改善及び効率化に関する目標

①組織運営の改善、②事務等の効率化・合理化

【評定】中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載19事項すべてが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、下記の状況等を総合的に勘案したことによる。

平成27年度の実績のうち、下記の事項が注目される。

○ 教員組織の設置と全学的人事の実施

全学が一体となって機能発揮できる体制の構築を目的に、教育研究組織から分離した教員組織として、「教育研究院」を設置するとともに、新たに設置した全学教員人事委員会において全学的な視点で教員人事に係る審議を行い、学部改組関連の教員配置や女性教員及び外国人教員の採用を行うなど、機能強化や男女共同参画の推進及び教員の国際化の推進を図っている。

○ 学長主導の施策を推進するための重点配分の実施

トップマネジメント経費を対前年度比3億5,300万円増(101.8%増)となる約7億円を確保し、ガバナンス機能強化のための体制整備や大学の国際化等の第3期中期目標期間に向けた学長主導による施策に対して更なる重点配分を行っているほか、平成28年度の学部改組に伴う分野拡充の戦略的なスペース及び学長裁量スペースを確保している。

○ 国際化に向けた事務職員の長期海外研修の実施

大学の国際化に資するため、2か月間のインターンシップ期間を含む約1年間の長期滞在型の「弘前大学職員海外実務研修」を実施し、事務職員2名を海外協定大学に派遣するとともに、平成28年度派遣予定者2名に対する学内事前研修を実施している。また、本研修経験者については、国際関係業務を行う部署に配属し、従前は教員が行っていた海外協定大学との国際連携・教職員交流事業等に係る交渉や留学生の実情に即したきめ細やかな対応を行うなど、国際化に貢献している。

(2) 財務内容の改善に関する目標

①外部研究資金その他の自己収入の増加、②経費の抑制、③資産の運用管理の改善

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載5事項すべてが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

(3) 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標

①評価の充実、②情報公開や情報発信等の推進

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載5事項すべてが「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、下記の状況等を総合的に勘案したことによる。

平成27年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

○ 教員の業務実態に応じた評価の実施

従来の教員業績評価で実施している評価分野ごとに総合点を算出する方法に加え、新たに2種類（学部・研究科、附属病院の教員に適用されるⅠ型及び研究所や機構等特定のプロジェクトを遂行する教員に適用されるⅡ型）の評価制度を設計したことで教員の業務実態に応じた評価を可能とし、平成28年度の業績を対象とした試行の実施を決定している。

(4) その他業務運営に関する重要目標

①施設設備の整備・活用等、②安全管理、③法令遵守

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載18事項すべてが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

II. 教育研究等の質の向上の状況

平成27年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

○ 教育推進機構の再編による体系的な教育の推進

教育推進機構を再編し、教養教育に関する企画立案、実施運営等を行う「教養教育開発実践センター」、入学者受入方針に応じた入学者の確保のための調査研究、企画立案及び実施運営等を行う「アドミッションセンター」及び教育改善・充実に係る調査・研究、企画立案を行う「教育戦略室」を新設するとともに、キャリア教育、就職支援等を行う「キャリアセンター」を再編することで教育改革推進体制を確立し、一体的かつ機動的な教育活動を実施している。

○ 世界自然遺産「白神山地」をフィールドとした教育研究活動の充実

調査研究機能の強化を図るため、環境変動モニタリングの観測サイトの拡充、生物標本の継続収集等を行ったほか、新たに「白神山地植物情報検索システム」を作成するとともに、研究所ウェブサイトで一般公開し、白神山地に生息する植物（約1,500種）の植物情報を掲載している。

○ 地域連携による研究活動の推進

青森県の豊富なエネルギー資源を活用して地方創生を図るため、県内自治体・企業等との密接な連携により、地熱、バイオマス、海洋等に係る研究活動を推進している。地熱については、八甲田山北西地域における2,000m級地熱調査井掘削と、岩木山嶽温泉地域における1,500m級地熱調査井掘削の実現に大きく貢献している。

附属病院関係

（教育・研究面）

○ 地域の看護職員の質向上

保健学研究科、地域の病院、訪問看護ステーション等との協働による「つがるブランド地域先導ナース育成事業」として、急性期の治療から退院後の療養生活の指導や助言まで含めた看護を提供できる看護師を育成するプログラムを構築して実施したほか、地域の看護職員、潜在看護師、看護師等養成所教員及び看護学生を対象とする研修を実施するなど、地域の看護職員の資質向上に寄与している。

（診療面）

○ 地域連携業務の効率化

外来通院から入院、退院後にいたるまでの患者の支援を効率よく実行するため、地域連携室を発展的に改組し、総合医療相談部門、入退院支援部門、外来予約支援部門、肝疾患相談支援部門の4部門からなる「総合患者支援センター」を設置し、入院前オリエンテーションの実施等により患者基本情報を早期に得ることで患者入院時から退院・転院支援を可能にするなど、地域連携に係る業務の集約化を図っている。

(運営面)

○ 女性医師の職場環境整備

青森県地域医療再生計画による県の補助金を活用して更衣室・休憩室・仮眠室等を備えた女性医師支援施設を新築し、供用を開始するなど、女性医師が働きやすい職場環境を整備している。